

# 幼 兒 教 育 研 究 雜 誌

## 母 子 と 女 子



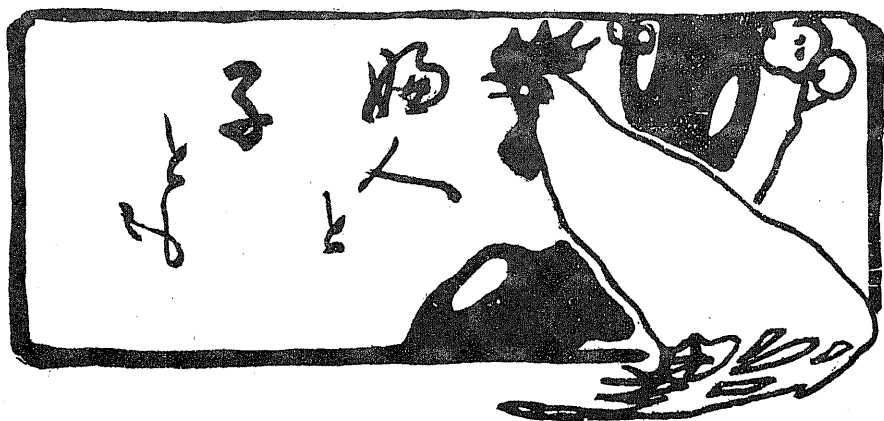
### 第 九 卷 第 八 號

#### 目 次

- |                  |          |
|------------------|----------|
| ● 水を啜て           | 小 杉 楓 邨  |
| ● 規則的運動の幼児に關する實驗 | 井 口 あ くり |
| ● 遊戲的手工とは何ぞや     | 和 田 實    |
| ● 幼稚園に於ける幼児保育の實際 | 某 女 史    |
| ● 愛情と子女の養育       | 樂 夫 子    |
| ● 酒と烟草を家庭外に放逐す可し | 湘 陽 生    |
| ● 蚊と蚤            | 神 尾 驥 子  |
| ● 西洋美貌法の今昔       | A. S. 生  |
| ● 玩具研究部記事        |          |
| ● 最近玩具の紹介        | 高 市 次 郎  |

フ レ ー ベ ル 會 社 發 行





## 第九卷第八號

氷を喫て

小杉 楓 邨

古きふみ見るに、四月より九月頃まで、主水司、日々にこれを奉りて、おもの、そのほか暑氣さくる用に、あてさせたまひよしなり。そのこれを貯へし處も、何の山、くれの野などより、からくも得つるよしなるを、此頃は北邊の國を始めて所々よりこの都に運び來て、ちまたことにひさぎて、下が下までも、いと得安げにものするのみならず、門邊によばりゆく其聲きいて、まづ暑さ凌がるい心地す。けふも例の晝間に一ひつをけつりて、砂糖かてい、水すこしさしそいぎてうちのむ、それをや氷水とむかしいひけんな。この砂糖おしなべたらめそのかみは、甘露煎やならうちそいぎぬとか。今は一日これなくば、この頃をいかでとけてもくらさましなど、おぼゆるまで、げに氷室のくさび、うちひらけ來し御代にもあるかな。めしよせて今日のあつさをけつり氷のむかし身にしむおものなりけり

# 規則的運動の效果に關する實驗

女子高等師範學校 教授

井口 あくり

運動とは、身體の一部分又は全部を働かして、其發育と強健とを助くる方法でありまして、其種類も大變多いのでありますが、時には之を甚だ狹義に解釋して、一種の遊戲とも見るべきもの、即ち男子ならばフットボール、テニス、ベースボールの類、女子ならばテニス、ダンスの類を唯一の運動と看做すことあるは全く謬見であります。身體の健康を保全し増進するには運動が必要なりとて只妄りに此の種の遊戲的運動にのみ熱中し、能事終ると思ふ人もあるかに見受けらるゝは遺憾な次第ではありますまいか。女子のテニス、ダンスの如きも、勿論運動の一種であつて、體育上價値のないものではありませんが、併し眞に體育の目的を達するには、他に肝要なる合理的の運動があらうと思ひます。それは、生理學、心理學等の學理

に基いて組立てられた所の規則的運動、即ち體操であり、この體操といふものは、人體の諸機能中に於て最も重要な呼吸及び血液循環作用等を順當にして、内臓機關の健全を圖るを旨とし更に進んで筋肉や骨格の發達を助けしむる方法までも研究して居るのです。蓋し内臓機關が健全にして其作用が活潑ならば、筋骨の發達の如きは、期せずして自ら得らるゝ結果であらうと信じます。然るに世の女子は此等の重要な體操をば措いて顧みず、只テニス、ダンスの如き遊戲的運動をのみ好むは、所謂本を捨て、末に奔るものでありまして、時としては、體育上益する所なきのみならず、却つて弊害を貽すこととなつて困るのであります。テニスの如きは、右の方を多く使ひますので、其一方のみ著しく發育して、生れもつかぬ畸形に變する事がないとも限りません。且つ妙手になるほど興味を増すので、終には其興味のために夢中となり、自己の體質如何をも打忘れて、長時間之を續ける結果、本來の目的と相反して、却つて内臓機關の健康を害じたといふ如き事も屢

々耳にする所でありました。ダンスの如きも、從來運動の極めて少なき我邦婦人のためには、幾分か効もありませうけれども、只是のみでは、彼の誤れる醜く傳來的姿勢を正し、薄弱なる筋力を強め、軟弱なる動作を快活にし、優柔なる精神を鞏固にするといふ様なことは出来まいと思はれます。故に身心共に強壯ならんことを望まるゝ女子は、是非とも學理に適つた所の體操を熱心に修練して欲しいと思ひます。之を毎日たゆみなく行うたならば、敢て長年月を要せず、半年か一年の間には身體の上にも、精神の上にも、必ず著しき効果を認め得るは、私の實驗上些も疑ひを容れぬ所でありました。

次に一二の實驗談を申し上げませう。私が小學校を出て女子高等師範學校を卒業するまで、前後十數年間、絶えず體操を修練して居りましたので、體育上に効果を見たことでありましたが、併し之を其後亞米利加に留學して三年間修得したる體操の效果に較べると、遙かに寡ないやうに思はれます。それは畢竟彼の米國のは其方法が餘程進歩し

て居り、教授法も異ひ、種々の設備も整つて居る結果であらうと信じます。當初私が彼國の女子と一緒に敎授を受けました際には、或種の運動は非常に苦しく、とても同じに進んで行くことは出来まいと思ひましたが、其時私は、此位の事で挫けてはならぬと決心しましたのと、又一には其運動が、自然、生理的、心理的に發達するやうに組立てられてあるので、一時は殆ど絶望致しましたけれども、兎に角彼國の女子にあまり遅れを取らぬやう一生懸命に修練したのであります。其結果として最も眼に見えたのは、姿勢の直りし事、胸廓の廣くなりし事、腕力及び脚力の強くなりし事等であります。此等は體格検査に依りて明かに證明されて居ります。其他數の上に現はれぬ所の身心上の効果も尠なからぬ事と考へます。お蔭で私は以前のやうに、詰らぬ苦勞心配に沈んだり、物事に屈託するやうなことは殆ど無くなつたのであります。

米國留學中合理的體操に依つて此の如き好果を収むることが出来ましたが、只遺憾なりしは、先天

的に低い身長は依然低く、體重も彼國の人とは、比較にならず、従つて體力も甚だ劣る事でありました、故に少時間の競技ならば負けは致しませんが、いかに氣ばかり張つて居ましても、長時間繼續する運動になりますと、到底彼國の學友に勝つ譯に参りませんでした。このやうに米國の女學校に於ては、體力上毎こ遅れを取り勝の私が、一旦日本へ歸つて参りまして、十八九歳より廿三歳までの血氣盛りの、而も毎日體操を練習して居る、普通の婦人よりは比較的體力の強い人々と比べて見ますと、私の方が劣るどころの話ではありません、却つて優るのであります。此等の事實を對照して見ましても、亞米利加の女子と日本の女子との間には、體力上幾何の相違あるか、容易に了解さるゝと同時に、今後我邦の女子たるものは、一層各自の體育に注意して、益國力發達の基本を鞏固にすることに力を盡さなければならぬ事と思ひます。

曾て私の教授しました國語體操專修科生の一人でありましたが、其人は、該科に入學前、即ち高等女

學校在學中は、誠に虚弱なる體質で、時々健康を損じ、登校する日より缺席の方が多い位でありましたので、該科に入學の志望を起しました時には、到底其修業に堪へ得ぬ事であらうと、教師や知人等は危んで頻りに止めた程でありました、然るに入學後一年ばかりの間、私が實驗上豫て體育上大變價値あるものと堅く信じて居りきす所の瑞典式體操をたゆみなく練習せしめました所が、其効果が目醒ましく現はれまして、全く別人かと思はる、ほどに、血色も好くなり姿勢も正しくなり、肉筋も發達して、入學當時より體重が二貫目も増したといふやうな状態、で病氣缺席などは全くなりました、そこで同人の歡喜は申すまでもなく、前に同人をよく知つて居りました教師方も規則正しい運動の効果のいかにも著しきに驚かれた位でありました、此他にも悦ぶべき實例は種々ありますので、近頃は、多くの女生徒の方々は、體操を嫌ふどころではありません、皆進んで熱心に教授を受ける様になりましたのは、私の誠に悦んで居る所でございます。

正則なる運動の効益に就ては、或男子の方からも  
 實驗談を伺つた事があります。其人は帝國大學の  
 學生で、後には大學生中の錚々たる運動家になつ  
 た方でありますが、幼少の頃は誠に虚弱で、果し  
 て満足に成長し得るか否かと疑はれた位であつた  
 さうであります、父兄の方々は非常に心配して、  
 學問の方は暫く中止せしめ、體操學校に入れるや  
 ら何かして、健康を進めることに苦心されたさう  
 であります、其結果大に顯はれて、漸々強壯にな  
 り、大學へ入學する時分には日本人には稀に見る  
 ほどの身長となり、體重、體力等も夫に準して重  
 く強く、長時間の運動にも耐へらるゝ様な體質に  
 なつたさうであります、それで大學の運動會とい  
 へば、何の競技にも必らず加はつて、毎に一二等  
 の勝利を占め、或種の運動に至つては、在來の世  
 界の最上標準を破つて、新しい記録をさへ作ら  
 れたさうであります、少時不健康のため、修學の  
 年期が二三年遅れたさうでありますが、其遅れは  
 決して障害とならず、暫時の間に取返し得たるの  
 みならず、大學入學後は、學力は敢て他に譲らず

して、いつも優等の名譽を得られたさうでござい  
 ます、此等は眞に體育を尊ぶべき價値を示す適例  
 ではありますまいか。  
 私は世の姉妹たる人々に對して、規則正しき運  
 動法即ち體操を、毎日時間を定めてたゆみなく練  
 習せられ、其上でテニスとか、ダンスとかいふ運  
 動を試みらるゝやうにお勧め致します。一旦體操  
 を土臺として身體を鍛鍊せられたならば、其他の  
 運動はあまり骨を折らずとも、自然巧妙に優美に  
 出来るやうになります。併し我邦今日の狀態に於  
 ては、正則の運動を修練したいといふ意志があつ  
 ても、公私の設備不十分なるため實行しかねて居  
 られる向もありませうが、此に一つ簡單で、練習  
 も場所も要せず、又如何なる人にも出来ます所  
 の有効なる運動法があります。外ではありません、  
 毎朝新鮮なる空氣に觸れつゝ深呼吸を行ふ事であ  
 ります。毎朝十回乃至二十回も深呼吸を試みまし  
 たならば、一月二月から一年と經つ間には、必ず  
 良結果を收め得らるゝ事と信じます。其他私が前  
 に申上げました、法に適つた運動法と申しますの

も、必ずしも器械や設備がないから練習されぬといふ様な窮屈なものではございません、自己の體と疊一疊だにあれば、誰でも亦何處でも出来るのであります。

私は世人が忘りに主義なく精神なき運動法にのみ奔ることを避けて、成るべく規則正しき効力ある運動法を擇び、以て十分體育の眞價を發揮せられんことを希望するのであります。なほ各種の運動に關する新しい方法や實例に就いて、種々お話を致したい事もあります、それらは更に研究の上機を得て精しく申上げること致しませう。

## 遊戲的手工とは何ぞや

和田 實

「幼稚園恩物」と云へる名稱は、フレーベルの名と共に廣く教育家の間に知られた名前ではあるが、併し是が現今小學校に於て盛んに流行否研究されて居る所の手工と全く同一のものであると云ふことは、未だ知らぬ人が多い様である。法令の上に

も小學校令施行規則の中には手工といふ名前を用ゐて居るに係らず、幼稚園の章中には明かに「恩物」と云ふ別名を採つて居るから實質を知らぬ人は全然別物であるかの様に思ふに違ひない。成る程、恩物と所謂手工とは多少異なる點のあることは否定することの出来ぬ所ではあるが大體に於て恩物と云ふ細工の一種類は手工と云ふ細工の一種類のものとしも變はつた所かない、且つ其教育的價値に於ても兩者は全く同様な期待の本に教育的材料と認められて居る次第である。故に若し小學校に於て彼を手工と呼ぶならば幼稚園に於ても之を手工と呼ぶ方が名稱の上に統一があると云はねばならぬ。勿論材料の取扱方等に於て兩者は異なる點を以て居らぬ譯ではないが細工其ものを仔細に見て行つたらば、其決して根本より異なるものでないことが判るであらう。人或は恩物といふ名稱はフレーベルの効績と共に永く保存すべきものであるから假令其内容が小學校の手工と全然同一であるとしても其取扱方等に於て多少の差異ある以上は恩物と云ふ名稱を保存して置いても

差支ないではないかと云ふ人もあるけれど、併し教育は活動の一系列である、幼児教育は頓がて小学校の教育に接續すべきものであるとしたならば其教育材料の引き續いて行くものは矢張り同様の名稱を續けて行くことが便利ではあるまいか、幼稚園時代には恩物と云つて居つたが小学校に行つたら急に手工と云ふ名稱に變つたと云ふのは可笑しなことではあるまいか、且又斯様に實質を同ふし教育價値を同ふする二つの事項否一つの事項を單に幼児時代に用ゐると小年時代に用ゐるとに於て其名稱を異にして別種のもの、様に扱ふことは、科學的理論的組織を立つる上に大なる障害と云はねばならぬ。故に吾人は爾後實際の場合には慣用の名稱を用ゐるとしても組織的理論を講ずる場合には從來の恩物なる名稱を廢して、廣く行はれて居る手工と云ふ名稱を用ゐる様と思ふのである。併し茲に一つ注意すべき點がある。幼稚園の手工は小学校の手工と全然同一ではない。兩者は其性質に於て其取扱方に於て多少異なる點を有して居る。従つて名稱の上に於ても出來得可く

ば其特質を表はす様にしたいものである。是に於てか吾人は表題の如く「遊戲的手工」の名を用ゐる譯である。然らば何故に吾人は之を呼んで遊戲的手工と云ふかと云ふことは次に説明せらる可き疑問であらう。

元來手工の教育的價値と云ふものは彼コメニユース等の改革的教育家に因つて夙に十七世紀に於て唱導せられて以來、英吉利ではジョン、ロツク佛國ではルーソー等の力に因つて益其必要なことが主張され遂にはベスタロツチをして之を其ノエホッフの貧民學校に施さしめ、フレーベルをしては之を幼児教育に實行せしめたものである。然るに十九世紀に於けるヘルバルト派教育學の勃興は此教科に對する注意を輕んじたるために折角起り來つた手工的教育の氣運を阻碍するの悲境に陥いつた。けれども、實業的教育主義の普及と新心理學の勃興とは相率ゐて遂に此科の教育的價値を發揮せしむるに至つて、僅か二十年ばかりの間手工は教育上缺く可からざるものとして各國の競ふて採用する所となる様になつた。我國に於て

は既に明治九年に於て東京女子師範學校附屬幼稚園  
園即ち現今の女子高等師範の附屬幼稚園に恩物と  
して採用したのが始めではあるが小學校の教科と  
して採用することを許したのは明治十九年以來の  
ことである。併し近年、我文部省は極力獎勵の  
方針を採るが爲めに今は全國到る所に於て此教科  
を課するものがある様になつた。併し斯様に盛ん  
に教育的事項として採用せらるゝ迄に認められ  
所の手工科の教育的價値は二つの方面を採つて居  
る。即ち一つは其心理的形式の方面と、一つは  
其實質的實用的方面である。小學校の教科として  
は一方に心理的發達に資すると共に他方には社會  
的生活的資料としての役立をもせねばならぬ。此  
意味に於て手工は教科としての資格を完備して居  
るものである。併しながら此意味に於ける手工は  
幼児教育に於ける教育事項としては餘りに立派に  
過ぎて居る。従つて斯る嚴格なる意味に於ける手  
工は幼児に課することが出来ぬ。吾人が幼児に課  
する所の手工は單に其心理的發達に資するを以て  
目的として居るもので、云はゞ形式的目的の一點

張りとも見る可きものである。勿論形式的發達の  
ある所、必ず實質的發達なきはなし。で幼稚園の  
手工も何等かの實質を伴はねことはいない。幼児教  
育に施せる手工の實質的方面は吾人の常に考ふる  
が如き社會的實用的意味あるものではなくて主  
として幼児の現在生活に資するものである。而し  
て幼児の現在生活とは何ぞやと云はゞ是は主とし  
て遊戲にありと答へねばならぬ。是に於てか小學  
校に於ける手工と幼児教育事項としての手工とは  
其結果に於て一は社會的實用的なるに反し一は單  
に遊戲的なるの差異あることが判るであらう。是  
即ち吾人が幼稚園の恩物を目して遊戲的手工と呼  
ぶ第一の理由である。且又小學校に於ける手工は  
云ふ迄もなく嚴然たる教科である。其材料の選擇、  
排列は充分に嚴格なる法則の支配する所たる可  
く、其被教育者に對するや固より權威ある強迫を  
行ふことを得可し。然るに幼稚園に於ては此の如  
く嚴格なることは出来ぬ。材料の選擇は單に或程  
度迄必然的に斯様なものを要すと云ふに止ま  
り、決して具體的に是々を爲さむめんなど、確定

することとは出来ぬ。其材料の排列とても同様である。之を論理上から見たり心理的に考へたりたれば材料夫れ自身には各當然の順序があるに相違ない。併しながら幼児の遊戲的行動が決して一事項の組織的順序を追ふものではない。遇然の結果に因つて常に種々なる前後をなすもので、要は幼児自身の主觀的心理的發達の上に於ける必然の順序を踏むの外決して人爲的順序や排列などに拘泥するものではない。換言すれば幼児の行動は極めて自由の分子を含むこと多くして之を精密に豫定することは到底不可能のことである。偕て幼児に課する所の手工が此の如く極めて自由に遊戲的に取扱はるゝとしたならば之を小學校に於ける教科的手工と區別して遊戲的手工と名けることは當然のことではあるまいか。是吾人が遊戲的手工の名を採用する第二の理由である。

以上論ずるが如く幼稚園に於ける幼児の手工は其取扱上より見るも其結果より見るも共に遊戲的範圍を脱却することの出来ぬものであると云はねばならぬ。然るに茲に頑固な人がある。曰く

遊戲は徒戲である。教育に反するものである。遊び憚がつくと云ふことは、後來の教育上大に恐るべきことである。幼稚園の出身兒は兎角教科を遊戯化して困る。手工は教科的作業であつて遊戯でない。其幼稚園に於ける手工と雖も決して遊戯的に扱ふ可きものではない。且又幼兒と雖も日々若干の努力的作業に従事することは、後來の修養上必要な課程であると、

併し此人は遊戯と云ふものが如何なる性質のものであるかと云ふことを知らぬ人である。幼兒の精神を發達せしむるものは遊戯の外に得られないと云ふことを知らぬものである。凡ての教科と云ふのは遊戯の中に其萌芽を有するものでなければならぬと云ふことを知らぬ人である。而して此人の所謂日々若干の努力的作業に従事せしむることを此手工の中に見出さんとするは遊戯を以て藝方の犠牲とするものである。吾人固より藝方の必要を知つて居る。幼兒には日々若干の努力的行動を採らしむ可きものであることを知つて居る。併しなから遊戯を勤勞化して迄も之を強迫しなければならぬ

らぬものであるか否かと云ふことは大に疑はざるを得ない。否吾人は興味を以て基礎として居る遊戯的活動をば徒に勤勞化して基礎なく興味なき努力の偶像たらしむることは寧ろ極めて有害なことであると思ふのである。何となれば斯の如き不自然なる勤勞の結果は決して興味と努力とを結合せざる自發的勤勉と云ふものを養成する必然の順序と見ることは出来ないからである。

好し數歩を譲つて幼稚園の手工をば教科としての手工と同視するとした所で、其取扱方は如何にす可きかと云ふ問題は何に因りて解決す可きか、今日の所教授學の諸法則は決して幼稚園の作業を指導するに恰好のものではない。教授學の法則は應用すれば、する程幼稚園の本旨本領に遠かり行くことは實際吾人の常に經驗する所である。此場合於て之を遺憾なく指導し得ることは、之を遊戯の境地より説明することである。即ち幼稚園に於ける保育事項としての恩物は遊戯的手工として見る時に於て尤も完全なる理論的解決を得るものである。

## 幼稚園に於ける 幼兒保育の實際 (承前)

某 女 史

(3) 談話  
元來幼兒は談話を好めども當組幼兒が之を喜ぶことは實に甚だしきものなり。殊に第二學期の中頃より第三學期に至りては談話者の技倆の巧拙に關らず殆んど飽くことを知らずして聞く風あり。三十分より四十分には渡る談話をもよく意して聞くこと常なり、現在の所何物よりも談話を喜ぶ風あり。

談話の材料は保育要項にあるものを中心とし標準としたれども其他に用ひたるものは少からず新に用ひたる談話の題目

猿の話  
猿ばしの話  
帽子賣と猿の話  
猿の魔物話  
梅の魔物話

○栗山の話  
くりやま はなし

海水浴の話  
かいすよく はなし

行啓につきての御話  
ぎやうけい おはなし

龜の話(魔物語)  
かめ はなし

孝子の話(水戸黄門の傳)  
かうし はなし

○天の神の話(婦人と小供)  
てん ねがみ

粉屋の鼠(同)  
こなや ねづみ

○鼠の戦争(少年)  
ねづみ せんそう

○鶏の魔物語(兒童)  
けい まぶつご

○鶏の功名(小波山人おとぎ話)  
けい こうめい

旅順の海戦  
りくじゅん かいせん

寶袋(婦人と小供)  
たからぶくろ

一寸法師の話(唱歌による)  
いっすんはなし

○印を附しなるは就中幼兒に興味ありしものなり  
しるし かんづくえい

り又保育要項中の談話中幼兒に興味多く價值多  
また びようようじょう だんわ かんづくえい

しと認めたるものは再三反復して話したるが今  
しめ さんさん はんぷく

金太郎  
きんたろう

羅生門  
らせいもん

花咲爺  
はなさきぢ

浦島太郎  
うらしまたろう

桃太郎  
ももたろう

而して本學年の終に於て幼兒に畫紙と鉛筆とを  
しんがくねん さいに おに えいじ と えんぴつ とを

與へて何にても今迄きゝたる談話の畫を描けと  
あたへて なににても いま いたる だんわ の え を かく

命じたるに其決果は左の如くなりき(畫の成績  
めい じたる に けつぐは さいの ごとく なりき かくの せいせき

別紙)  
べつし

羅生門の話  
らせいもん はなし

一寸法師の話  
いっすんはなし

旅順の戦争  
りくじゅん せんそう

熊谷直實  
くまがひなふみ

宇治川  
うじがわ

桃太郎  
ももたろう

兔と龜  
うさぎ と かめ

幼兒が自ら談話する練習はあらゆる機會を利用  
えいご が みづか ら だんわ する れんしゅう は あらゆる きかい を りよう

して之を勉めたるが時に時間を定めて幼兒に思  
して のを べんめい たる が とき に じかん を じやうめい して えいご に かん

ひくくの談話をなさしめたり  
ひくく の だんわ を なさしめ たり

月曜の朝には土曜日より日曜日にかけての經驗  
げつげつ の あさ に は どようび より にちようび にかけての けいけん

を語らしめ其他の休暇後にも同様の取扱をな  
を ことば しめ ほかの けいあ 後 にも どうよう の けいかい を な

し手技の場合に特に知れる兒をして知らざる兒  
し てぎ ばい けい かに くに ちれる こども を し て しらずる こども

に説明せしめ  
に せうめい せしめ

欠席の後は自ら其理由を話さしむる等のこと  
けいせき の 後は みづか ら けいりゆう を ことば さしむる 等の こと

三(男)

七(男)

四(男)

二(男)

一(男)

十四(男)

十四(女)

八(男)

四(女)

二(男)

一(男)

一(女)

一(男)

一(女)

一(男)

一(女)

鼠のいくさ 十一(男三)

獅子と鼠 一(男)

猫とかなりや 一(女)

櫻井の驛 一(男)

牛若丸 二(男)

金太郎 一(女)

八藏と柿 一(男)

一(女)

一(男)

一(女)

一(男)

一(女)

一(男)

一(女)

一(男)

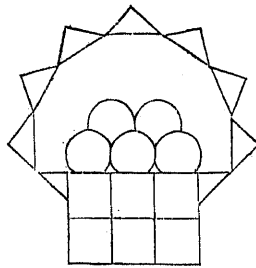
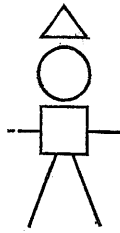
一(女)

(4)

は常になす所にして實際の事に當りて其思想を發表せしむることに勉めたり  
 天長節、紀元節、皇后陛下御誕辰祝日、四方拜等の佳節を利用しては嚴正なる辭令の練習に當てたり  
 又或繪を示して想像を以て其話をなさしめ題目を與へて知れることを語らしめ時には又花、鳥、獸等幼兒に親近なるものにて十分に同情し得べきものを選びて幼兒をして自ら其物たらしめて一人稱の談話を試みしめたることもあり此の如くして幼兒は不十分ながらも兎に角進んで自己の思想を發表せんとする傾向と其術とに著しき進歩を與へたることを信ず  
 手技  
 手技の配當は保育要項によりたれども第二學期より縫取を始めたるを異りとす  
 積木  
 積木は學年の全體を通じて用ゐ一週二度か一度の割合としたり而して常に飽くことなきものなり

第一學期の初めに於ては  
 正立方體 四個  
 長方體 四個  
 大なる三角 四個  
 薄き三角 四個  
 正立方體 六個  
 長方體 四個  
 薄き三角 四個  
 柱 四本  
 大なる三角 四個  
 小なる三角 八個  
 となし始めて一全體として箱に納めしめたり、  
 小なき三角 四個を合して正立方體となすことは幼兒にとりて甚だ困難なることなりし様に夏期休暇の前始めて全組の幼兒が補助なくして之を一まとめに成し得るに至りたり  
 豫定の材料は早く終りて第三學期に至りては大概幼兒の隨意につましめ保姆之を批評し補足したり  
 積方を授けたるものの中に隨意の際よく幼兒に積まるゝものは汽車。船。風呂。橋に郵便函等にして幼兒の工夫によりて成るものにて最も多くしかも各種に積まるゝは電車なり  
 板並

變化に乏しく幼児の思想が之によりて制限せらるゝ傾あればにや一般に幼児は多く好まず殊に第二學期の始頃は其傾著しかりしを以て暫く貸し與へざりしこともありしが第三學期に於ては又やゝ之を好むに至りたり之を用ひしむる方法上其原因と認むべきことは別に發見せず又板と著環とを並用する時に基に興味あり例へば○を顔とし△を笠とし口を服とし目を足とし又手とするが如し



書き方 書き方は手技の中に最も幼児の喜ぶものにて又價値多きものと思はる多く其隨意に描かしめ保母が注意所々に加ふるに止めたるが又常に室内の裝飾として掛圖を用ひ之を取り代へ又略畫

を描きて壁側に掛け置き自ら其描き方を知らしむる様勉めたり但し略畫を示すにつきては又實物が幼児の思想界にあるものを材料とすることゝを忘るべからずとせり然らざればこは住々無意味に陥りて却りて誤解の原因となることありたるを以てなり  
畫紙は通常十六分したるものを用ひたりしが第三學期に於てシヤトル博覽會に出品の爲とて八ツ切の紙を用ひて描かしたることをしばしばせり幼児は後者にもやゝ慣れて自由に其紙を使用し得るもの多きに至りたれども尙は八ツ切よりは十六切位に描かしむる方一般には手ぎは宜き様なり  
色鉛筆の使用は時々したりしが幼児の色彩の配合に關する考は次第に進歩發達して最初は徒らに赤青を塗たてたるが次第に考へて美しき清楚なる取合せをもなす者あるに至れり色鉛筆は經濟の許すかぎり使用せしめたるものなり「消しゴム」は一般に使用せしめず幾度も描き改めて其手の練習に資せんことを理想とすれども

縫ひ取  
幼兒の發達するに伴ひて往々之を要すること實際に之あり當組幼兒も第二學期の末より三學期に至りて殊に描き方に勝れたる方の幼兒が之を要求すること度々にして又消し與ふる必要ありを認むる場合も多かりしを以て保母の手に之を所持し時に應じて消し與へたり  
書き方は第三學期に於て著しく發達し臨畫、寫生畫をもなし殊に密畫を畫くものさへ出來たり

第二學期の終二週間より之を加へたり  
最初は一針毎に糸をミズより抜き去るもの糸をもつらず者多くして甚だ困難なりしが漸次針の使用は巧みとなり今は只其縫取り方の順序を會得せしむることのみに注意すれば可なるに至れり  
縫取のみにても男女兒共之を喜ぶとも亦之に畫き方剪紙等をまちへ用ふる時は更に興あり糸の端の結び玉を作り最後に糸の「トメ」をなすことは大方保母の手によりてなすなり  
剪紙

初はきりたる紙を與へてはらしめしが第二學期より鋏刀の使用を初めしめたる家庭に於て曾て未だ之を用ひたることなしと云ふは三人のみにて他は多少の練習をつみ居たりされど未だかたきもの綿密なる形を剪るに通せず與へたる紙を全く反古として泣き出すものもありしが漸次練習をつみて随分巧みなるものも出で來たり、花鋏の如きものを自由使用し得る者も二三見えたり

剪紙の練習として古新聞を利用したるが思ひの外宜しき結果を挙げたり幼兒は家庭にてはなかく古き新聞如きに満足するものにあらずれども幼稚園にては全く物めづらしき爲にや之を喜びて一ページの新聞紙は三十分間の保育材料となりて彼等は各自任意の紋形等を作るほか又其紙上の文字をきりぬき挿畫をきりぬきて飽くことを知らず

紙織り  
材料の都合によりて最初より九行十行のものを  
用ひしめたるが更に困難を感ずることなかりし

を以て十三行にまで及ぼしたり出来上りの美はしきを以て幼児は常に其方法よりは寧ろ成績を弄びて楽しむ風あり材料には美麗式のものを取り營生式のものには至らざりき又此手技に於ては常に其色の配合に注意せしむることをつとめたり

### 紙くみ

之も成績の美はしきを喜ぶとも仕方は極めて個人的に導くにあらざれば會得しがたきもの多し色の配合に注意する便多きこと織紙に等し

### 紙摺み

第三學期に於て著しく幼児の興味を増したる様に自由遊にも白紙を取り出して自ら之を楽しむ風ありき教へたるものゝ外菖蒲、蛙、風船、オルガン、トンボ、馬等むづかしきものをも摺

摺み方は當組に於ては一般に女兒の方手ぎれい

### 豆細工

豫定の材料は教へたれども寧ろ幼児が任意の製

作の方成績は優れたる様なりつなき方と連合してなさしむることあり紙くみとも合してなしたることあり

### 粘土細工

當組幼児が得意の手技にして豊かな彼等が思想と奇抜なる工夫力とは制限せらるゝことなくして其製作品に現はれ成績甚だ宜し

粘土の材料としては勿論保育要項によりたれども球、圓柱、正方體、盈形の如き基本となるべき形のみを十分に練習せしめ其他は只之等の形の應用法を一二示したるのみにして形式を授くることを少くし自らの工夫に委ねるを批評し訂正することに専ら盡力せり而して此方法は其効果を著しくしたるが如き感あり  
保姆は又常に此粘土遊を以て書き方と並びて技中の價值多きものと認めたるを以て幼兒の好むがまゝに第二學期には大抵毎週二回之を使用し十一月に入りても尙ほ暖かなる日には之をなさしめたり

以上手技に於ける幼兒の成績は別に之を保存せり

# 育 兒 訓

- 一、菓子や密柑を以て子供の心を釣り、善事を勧め、悪事を懲すべからず。
- 一、憤らした儘で子供を寢床に入る、は最も悪しき事と知れ。
- 一、子供に強い光線を見せ、或は化物の話をすべからず、殊に就褥前に然りとす。
- 一、五歳未満の子供は、決して動搖木馬に乘らしむべからず。
- 一、突然聲を擧げて、子供を吃馬せしむることなど注意すべし。
- 一、動擧の靜肅と食物の清淡は、小兒の身體と精神を健かにする基なり。
- 一、些細な事を一々責むべからず、此を爲せよ、彼を爲せよ、开廢事をなす勿れと一々叱言を云ふべからず。
- 一、母親の温かくして樂しき心は、陰鬱なる世界を變じて、光輝ある樂園となす。

## 愛情と子女の養育

一六

樂 天 子

凡そ人の母たる上は、必ず子女あるを常とし、而して苟くも子女あれば之を養育して生長せしめなければならぬ、けれども兒女の養育も若し愛に溺れて、威嚴を欠かは、終には放縱無頼の徒となり易い、然れども親として子を養ひ育つことは、今茲に多言せず、最も注意すべきは繼子の養育である、自己の生みたる子は之を愛するも先妻の子は、無情に之を待遇して、世人の非難を受くるものが多い、先妻は不幸にして死亡するか、離縁するときには、後に残されたる子女は、實にその恃む所を失ふものである、故に繼母にして慈愛深く之を養は、彼れもまた眞の母のごとく之を敬ひ事ふべきも、若し陽に慈愛を粧ふて陰に之を憎み、已れの眞正の子と先妻の子との間に區別を設くるあらば其の子は之を怨むべく世人は之を擯斥するに至るのである、元來昔は繼母なるものは必ず繼子を慈まざるものゝ如くに思ひ、子

女を抱きて眠るにも自己の寢衣の外に抱きて親しく肉體に密接せしめざるを繼子抱とまで稱するに至つた、故に普通の實子と同一に待遇しても既に繼子を以て遇するかと疑はるゝのが常であつた、故に其の待遇は寧ろ實子よりも、一層心を用ゐなければならぬ。

世には不幸にして實の子女なきものもあります、此の如きは他人の子女を養ふて子となしなればならぬ、他人の子女にても能く親切に養はなければならぬ、實子と同じ様である、かの杏樹に梅枝を接ぎても能く梅樹たらしむることができる、故に養子をして家を續がしむべきものは、其養子を以て實子と同一に待遇し、他日能く自己の家名を汚がさざる人物を養成することを考へねばならぬ、古來の諺に子女を有せざるものに子女を與ふる勿れと言つて、自ら子女を生みしことなきものは、輒もすれば子女の愛情を知らざるが故に養子女に對して無情なるものと斷定した、是れ全般につきて然りといふにあらざるも、多數の習慣を類推したものである、故にまた深くこの邊に留意せねばな

らぬ、養子または實子にても、其家を嗣がしむべきものは、唯一人にして、その者は他日自己に代つて家を嗣ぎ、益々家運の隆盛を圖るべきものである、若し不幸にして家督を繼ぐべきものなければ、生前に貯へたる財産はつまり他人の手にわたらねばならぬ、また其相續者なければ貯蓄するも無益だと思つて、つまり濫用妄費して、遂には死後の追善費にも事を缺き、永く祭祀を營むことが出来ぬ、故に實子なくして他人の子を養ふものは、深く注意して恰かも實子のごとく赤心より親切に之を養育せねばならぬ。

畢竟親子間の感情は外形にあらずして、心意にあるので、如何に表面に愛情を装ふも、心中之を愛するにあらざれば、決して之を慕はず、反て表面には叱り懲らすことがあつても、内心に一片の愛情を蓄ひ、寐ても覺めてもこの愛情を絶たざれば、知らず識らずの間に感化せられて之を慕ふやうになる、かの平生愛撫するものは犬馬と雖も猶ほ之に感じて慕ひ仰ぐこと誠に慈母のやうであり、に繼子女又は養子女の我を慕ふと否と。

情の如何を顧みねばならぬ。  
 今茲に小兒養育の大事を述べん、小兒の時殊に分  
 娩後三四歳までの間は、身體最も虚弱にして且つ  
 發達の速かなるものである、故に些細の不注意も  
 疾病を起し易く、又些細の疾病も生命に關しやす  
 い、而して最も小兒の健康を害し易きものは、飲  
 食物である、故に第一に飲食物に注意せねばなら  
 ぬ、嬰兒の食物は乳汁を第一とし若し母の乳が不  
 足ならば乳母を雇ふか、牛乳におよそ三分一位の  
 清水を混じ、少しの砂糖を加へて飲ましむるの  
 よい、乳汁の不足はやゝもすれば成長の後虚弱と  
 なり易い、又たとへ乳汁に不足なくとも、母また  
 は乳母の身體に健康を欠くことがあれば、その乳  
 を吞ませてはならぬ、凡そ乳より傳染する疾病は、  
 小兒畢生の痼疾を生ずるもので實に恐るべきもの  
 である、又母および乳母の飲食物を慎まざれば、  
 その毒を小兒に傳ふる故に成るべく滋養物を食し  
 て、酒のごときアルコール質のものは固くこれを  
 禁じなければならぬ。  
 小兒の程々長じて食物を喫するに至りても、成る

べく之を與へずして玩弄物を以て之に  
 い、玩弄物は如何に多く與ふるも智識を  
 にして、身體を害することはない、之に反して小  
 兒の泣けばとて、食物を與ふるときは、胃腸を害  
 し又はその他の疾病を生じ易い、小兒の身體は頻  
 りに生長發育するものであるから、衣服は身體に  
 緩るやかに之を製し、必らず固く括つてはならぬ、  
 子守はつとめて温良の性質を擇ばねばならぬ、然  
 らざれば自己の遊戲に耽つて危険を冒し或は小兒  
 の身體に負傷せしめ、また見聞することは永く記  
 憶して忘れないものであるから不良の子守は小兒  
 の性質を誘ふて不良ならしめ易い。  
 また小兒の身體は最も清潔にし、日々湯に入れし  
 め、不潔物などの身體に汚染せざるやうにしなけ  
 ればならぬ、若し然らざれば其局部に糜爛を生じ  
 又は他の病氣を引きおこすことがある、兒女の居  
 間は空氣の流通を便にし、且つ成るべく靜かなる  
 野邊に出で、遊ばしむるのがよい、けれども烈日  
 く太陽の輝く所に於て眼を照らさるゝときは、目  
 を傷め甚だしきは不治の眼病となるから深く注意

せねばならぬ、睡眠の時には軽くして暖かなる毛布のごとき物を蔽ひ其の身體の發育を妨げざるやうにとめなければならぬ。

## 成功と十教訓

- 一、一夜二夜の徹夜位にては毫も倦怠の色を現はさざる程の健康力を有する事
- 二、明晰精緻なる数字的の頭腦に兼ねるに敏活の手腕と應用の才とを兼ねる事
- 三、一事を處理するには必ず完全なる終點を打ち然る後新たな他の仕事に向ふ事
- 四、用談には常に簡潔敏活の判斷力と言語とを用ゐて着々要點を捉ふるの實務的習慣を有する事
- 五、爲すべき事と爲すべからざる事と言ふべき事と言ふべからざる事に嚴格にして且細心なる注意力を有する事
- 六、自個の爲したる事には必ず完全なる辯明を保持し他より切り込む寸分の隙をも

- 七、虚々實々の奥底と對手の心理作用を即座に看破する丈の眼力を具備する事
- 八、奪ふべからざるの節操と容易に他人に譲る變通の才とを明白に兩立せしむる丈の腹ある事
- 九、執務に陰日向あるものは三日間位にて必ず炯眼なる上役に看破せらるゝものなる事を堅く自覺すべき事
- 同時に金錢を以て雇用しつゝある上役のものはお世辭よりも面諂よりも金錢に相當する或はそれ以上の働き振を見せらるる事を喜ぶものなる事を根本的に自覺する事
- 十、時間を嚴守することは勞甚だ少なく功頗る多きを心得べき事(太平洋)

# 酒と烟草を家庭外に

## 放逐す可し

湘陽生

酒と烟草とが生理上衛生上有害なものであると云ふことは、今更申す迄もないことでありますが、尤も現在其甘きに酔ふて居る人と未だ然のみ害を認めない人とは俄に之を排析することには賛成なさるまいとは思ひますが斯る人は心落ちつけて次の記事を読んで戴きたいものです。

別に病氣に罹つたのでも無いのに生れながらにして普通の小兒としての活力もなく、神経力も弱く、人生を餘りに悦ばない性癖があり、概して肉體薄弱で從つて其智力及び道徳力も普通の小兒より一ツト劣つて居る小兒が世に数少くありません。其然る原因は種々あり、其親たる者の不道徳なる性癖にも因りませうが、親たる男女の喫煙、飲酒の悪癖も其大なる原因となります。

ドクトルクロザーズ氏はヒステリーとか、癡癲

二〇

とか、何でも無い事に怒る性癖とか、感激し易い性質とか、憂鬱性とか、軽々しく信ずる性質とか、疑い深い性質とか、非常な感情的の性質とか、餘り理屈ツボイ性質とかは皆神経衰弱の徴候であると云ひました。而して神経及び腦力の滅殺衰弱は酒精及び藥劑に酔ふ事に原因するものが多いのであります。酒精が神経衰弱を惹起する事は今日一般の學者の一致する説であります。一體衰弱したる神経は刺戟劑を切りに欲する傾きがありますが、此時に當り弱くなつて居る意思は直ぐに其要求に従つて刺戟劑を與ふるので、其結果不幸にも酔ふやうになります。若し母の生活状態及び其道徳的所持の悪しかりし爲め其體を弱くし引いて其子女の神経を弱くしたものとすれば、婦人たるものは深く慎み、自らを其不幸なる状態より救ひ出さねばなりません。注意さへ怠りなくば其不幸より自らを救ふ事は少しも困難なことではありません。然るに少女にして自ら省みず自ら慎まず、其不幸より救はるゝことを欲はないならば其婦人の晩年が精神上にまた肉體上に甚だ不幸であるばかり

りでなく、可愛ゆき子孫にまでも其不幸を繼承せしめねばなりません。慎みても尙慎み、革めても尙革むべきことではありませんか。

愚鈍、酩酊は不幸にも開けたる國民の間に却て數多いやうであります。こは誠に吾人をして其何故たるかを問はざるを得ざらしむる程に驚くべき事實であります。

一生涯酩酊の事に付て研究せしクローザース氏は西曆千八百七十年より千八百九十年までに酩酊者が某市の住民の一割以上の比例を以て増加した事實を記して居ます。そして其多數の住民は皆其父か、母か或は兩親の酩酊から遺傳したものであると云つて居ります。之れ實に多數の婦人が好んで酒精を飲用せし悲むべき酬みであります。婦人たるもの深く慎まねばなりません。婦人にして深く自ら之を制し之を用ひないやうにするならば自然に男子の好酒性をも滅殺し、遂には之を禁せさせることが出来た。社會の花役者たる婦人にして酒精を甚だしく嫌惡するやうになりますならば從つて青年男子の好酒性をも滅殺することが出来た。

日本では幸にも教育ある婦人で酒に酔ふ様な婦人は餘り多くは認めませんが、内々は盛に飲んでる婦人もある様子です。無教育な婦人等では男子も及ばない位の大飲酒家もあります。酒を飲むことを道徳上より餘り八釜敷言はないのですから、自分ではよしや飲まなくとも友人や夫の飲酒することには丸で無頓著である、間には無頓著どころでなく、酒も飲まないでは男らしくないなど言つて、男子の飲酒を奨励する風さへ往々見受けらるゝ様であります。酒精が血液に混合すれば如何ばかり身體を損傷ふものであるかを知つて居る婦人が至つて少ない。どうしても健康の方面と道徳の方面とより、飲酒の害毒の甚だしきを恐れるやうな心が起らねばなりません。さりとて私は敢て酒精は一滴たりとも飲用すべからずとは申しませんが、日本の酒の様な弱い酒を適度に用ゆる事は害にはなりません、然し、適度と云ふ事が中々に六ヶ敷問題で、大抵は適度が適度位に思はれるから危険であります。飲酒は第一に社會に害を及ぼす

ものである、之は犯罪の統計表を見れば寒心する程に其害の甚だしきを認むることが出来ます。第二は自らの精神を甚だしく害します、之は諸姉が實見せられて疾く御存じの事でありませう。第三は肉體に其害を及ぼし引きて子孫百代に至るまで其精神及び肉體を傷ふものであります。されば國民の母たるものは自ら酒精の飲用を慎むは勿論、其夫、其友をして之を慎むやう陰に陽につとめねばなりません。

婦人にして若し飲酒家なる男とは結婚もせず、交際もしないと云ふ位に自らを高め、自ら慎むやうになりますならば、容易に男子の酒癖をも矯正する事が出来、多くの過失より國民を救ふことが出来ます、また花柳の街衢より男子の足を遠ざくることも出来ます。

夫婦共に酒を好む爲めに争ひの絶えない家庭もあるし、妻は飲酒せずとも夫が飲酒するのを拒まない爲めに最愛の夫をして大飲酒家たらしめ、家庭内の風波は常に絶えず、子女の身體極めて虚弱で、年中病人の絶えない家もあります。父が飲酒家た

るため子女も之を眞似、一家舉つて酒を飲み、近所隣りにまで迷惑をかけるやうな家庭もあります。殊に婦人が酒を飲む癖があれば家庭は實にダ

ラシなくなるものであります。飲酒の弊は如斯に家庭の幸福を破るのみならず、國家の平和國民の幸福を不知不識の間に甚だしく害するものであります。或處に一人の婦人がありましたが、初め其良人と婚約を結ぶ迄は少しも其男に酒癖のある事を知らなかつたものですから深く取調べもせず輕輕々しく契約致しました、すると愈々式も了つて其婦人が男のものと決まつたことろが男はそろ／＼假面を除け飲酒を始め、花柳の街衢に通ふ様になりましてので、新家庭の樂みと云ふものは全く見る事が出来ず、樂しき希望を抱いて嫁したる婦人は其後何時も泣き暮してをります。折角婦人と生れて未だに家庭の高尙なる快樂を少しも経験する事の出来ないとは誠に氣の毒な事であります。而して斯く如き不幸な境遇に陥つて泣き暮して居る婦人は世に少くない事と思はれます。未婚の婦人方は良人を選ぶに當り深く此點に注意せら

れんこと最も肝要であります。

人を酩酊せしむるものは單に酒類ばかりではあり  
ません、阿片、モルヒネ、鹽酸、コカイン、及び  
之と同種類の藥劑はまた危険なものであります。  
而して其害毒は之を服用する個人にのみ止まらな  
いで子孫永久に其害毒を流し肉體、精神を共に病  
的ならしむるものであります、阿片及びモルヒネ  
は醫士が往々之を使用し、病人は之によりて其苦  
痛より容易に免かるゝ事を経験して居ますから、  
後には之等の藥が身體に如何に有害なるかを知ら  
ずして、自分勝手に之を服用して一時其痛苦を免  
かれんと致します。そして度を重ねるに従つて遂  
には之が習慣となつて何時も之を服用したくなつ  
て參ります。そうすると既に弱くなつて居る意思  
は遂に此慾望に打克つことが出来ず、其欲するが  
儘に素人分量で無暗に之を服用し、かくして自然  
に悪しき習慣を造り、自分の身を亡ぼし、其害惡  
を子孫百代の身體及び精神上に繼承せしむるやう  
になります。

ドクトルロバートソン曰く精神錯亂、舞蹈病、ヒ

ステリー、偏頭痛、飲酒狂、道義心の錯亂、など  
は一として遺傳的傾向なしには偶然に發するもの  
でない、と。

モルヒネの害は酒精の夫れよりも更に大なるもの  
で遺傳の力も酒精の夫れに少しも劣りません、殊  
に道徳力は甚だしく滅殺せらるゝものでありま  
す、モルヒネの爲めに全く溺れられる人或は他の  
之に類する藥品を服用する事の習慣となつた人  
は、とても己れの名譽を保ち、正直にして、意識  
を備へたる人となる事は出来ません。其害毒は漸  
々甚だしくなつて遂には其人の一生を全く朦朧の  
内に葬らねばならぬやうになるものであります。  
ドクトルブラフシュ曰くコカインは阿片の蒸發氣  
を吸入するよりは更に危険で、更に苦しき結果を  
來すものだ、と。  
吾々の日常生活で甚だ危険な事は、勞少くして  
功多からしめんとのみ考へ、其方法を何うして  
講究したいとあせる結果、何時しか其氣力を増益  
することはおろか、却つて其力を消耗しつゝある  
ことであります。

ココア、チコレート、コーヒ、茶及び之に類する飲料を用ふれば一時氣力が増進せられたかの如くに考へられますが、其實は反對であつて既に貯藏されて居る資力をまで無暗に消費して結局神經の破産を來すやうになるのであります。親が一度神經の破産即ち神經の常軌を失ひ神經的種々の病氣にかゝりますと、遺傳の方則に従つて其子々孫々の幸福をまで破ることにあります。されば各々日々の生活に深く注意し、之等の害多くして得少なき飲料を用ふる事によりて我家に悪しき血統を創造しないやうに堅く慎まねばなりません。今日の世の中で最も危険なる然も最も普通な習慣は煙草を喫する事であります。喫煙は九で一種の必要物の如くに思惟され、之を爲すこそ普通の事なれと云はんばかりに一般に行はれ、政治家でも、實業家でも教育家でも、勞働者でも之をやつて居ます、彼等多くの者の間には煙草の有害な事は明かに認めながら其惡習慣より脱し得ない薄弱者も多くあります。煙草は科學的研究の結果甚だ有害なものであります。心臓、咽喉、神經など一

として害を受けないものはありません、而して其害毒は喫煙者の子女の身體及び精神にまでも恐るべき害毒を遺傳するものであります。罪なき子女等が神經衰弱に苦められ消化器官の不良に痛みを覺ゆる原因は其母たる婦人が其欲するが儘に喫煙したる度に正比例するものであります。婦人たるもの大に戒心せねばなりません。米國の或統計によれば、かの南北戦争の頃は徴兵検査を行ふに當りて不合格者は僅かに全壯丁の割三分であつたが此頃では不合格者が二割一分ありと云ふ事であります。殆んど以前よりは三倍の壯丁が兵隊としての勤務に堪ゆる能はざる程に悪い體格になつて居ます。之れ如何なる原因となつて居ると云ふことであります。また數年前アンナボリスの海軍兵學校のハウストン少佐は、同校入學を許可せらるべき生徒にして心臓病の爲めに拒絶されたものが全員の五分の一にして、其九割は喫煙の結果心臓を損傷つたものなることを記載しました。ヒステリーや憂鬱病や、肺病や、一寸坊の様に小

さな不恰好な體格や、喫煙者の子女等が苦痛の一生を終る事や、早逝するやうな事は皆其父母より繼承せし肉體の虛弱なるに基因するものであります。或處に極く考へ違ひの娘がありまして、大の煙草好きで男と結婚しました。すると子を産むやうになつたところが、産んだ子は死に、産んだ子は死に、三人まで死にました。是等不幸なる三人の子供は皆幼兒の麻痺で倒れました。之れ其良人が大の喫煙家であつた爲めに其害毒が小供等の身體を殺したのであります。其婦人は初めて自分が喫煙家と結婚した事の間違つて居たことに氣付きました。そして死んだ子供ばかりでなく自分が毎日毎夜其良人の喫する煙草のニコチンで中毒された室内の空氣を呼吸して甚だしく苦められ、遂には其健康までもいたく害せられたことに覺醒し、如此の喫煙者と結婚した事を深く悔い、悲しき一生を送つたと云ふことであります。

## 蚊 と 蚤

神尾 驥子

世の中には吾等人間に危害を加ふる昆蟲所謂害蟲は決して少くはありません。あぶ、はい、はち、毛蟲等は皆害蟲に屬するものであります。直接間接に人體に害を與へます。例へば蠅は傳染病を傳播する危険な媒介者となり、毛蟲は其成蟲こそは罪もなく空中に飛翔する美しき蝶であります。幼時は種絲野菜其他の植物の葉を食ひ盡して大害を與へます。また「うんか」と申します昆蟲は稻作に大害を醸す害蟲であります。併し是等は何れも問接に人間に害を與ふるものであります。蚊と蚤とは直接に人間を襲ひ、其血液を吸ふて生活する、いはば恐るべき害蟲であります。蚊と蚤とは一寸見た所では一方は翅を以て空中を飛翔し、一方は長い強い足を以て跳びまはり、一方は灰色がかつたうす穢い蟲で、一方は眞赤なすべくした蟲であります。大層異つた蟲であります。動物學から見ます時は雙方共に人の血液

を吸ふて生活して居る所や、及び其構造の點から此れは昆蟲仲間でも同じ種類の雙翅類と申すものに屬して居りまして、蠅、あぶ等とも親類になつて居ります。斯様申しましたならば翅のある蚊と、翅のない蚤とが親類とは誰も不審と思はれませうが、然しよく詳しく検査して見ますと、蚤も小さな翅をもつて居ります、それは極く小さな鱗の様なものでありまして、空中を飛ぶ役にたゝぬばかりでありまして、此點に於て此兩種の雪と墨の様に懸隔して居る昆蟲が同じ種類に屬するのであります。猶其構造を精細に觀察し其生涯の經過を研究して見ますれば、通常の人の夢にも見る事の出來ない奇觀で御座いまして、其の憎むべき敵である事を忘れしむる程であります。

人間の血液を吸ふて生活する昆蟲は蚊と蚤ばかりでは御座いません、虱、毛虱、南京蟲等も之れでありますが、是等は唯人の血液を吸ふに止まりまして、蚊や蚤の様に恐るべき傳染病の媒介をする事は少いものであります、たい信濃の木曾川の流域に産する「あかむし」は恙蟲病と申しまする病氣の

傳播を媒介するものであります、でありますから此所には主に蚤と蚊とに就て御話いたしませう。

## 一、蚊

蚊と申しましてもいろいろあります、最も普通なものゝは晝間は暗い所に潜伏して居て、夜になると出て來て人を刺すものであります。其外「やぶか」は晝間人を刺す大きな蚊でありまして、足に白い輪紋があります。我々が最も注意を要するものは「アノフエルス」と申す一種の蚊でありまして、晝間も夜間も出て人を刺し、かの恐ろしい瘡（マラリア熱とも間歇熱とも申します）の傳染を媒介するものであります。またある一種の蚊は九州殊に大島地方に流行する「くさ病」（フキラリアと申す寄生蟲の爲めに起る病氣であります）の媒介をいたします。

先づ普通の蚊に就て御話いたしませう。其外形は諸姉の御存じの通り灰褐色の細長い蟲で、其の足は極めて長く三對ありまして、止まる時は後脚は地につけないで居ります。翅は二枚ありまして其の下には大鼓の撥形のものがあります。通俗に

「あぶ」の眼といふものと同じものでありまして、空中を翹ける時に體の平均を取る爲めの道具なそうであります。

少し度の強い蟲眼鏡で之を見ますと、肉眼で見たり時とは大變な相違でありまして、全身に細いあまり長くない毛が密生して居りまして、恐しい様なものであります。猶其毛の外には團扇形の鱗が生えて居ります、蚊をつぶした時に手につく粉末は此の鱗であります。頭には一對の大きな眼があります、之をよく見ますれば網の眼の様な構造をもつて居る事が知れます。其詳細は略しませう。蚊の口吻、少し強く攪む時は直ぐつぶれてしまふあの軟かな體をもつて、よく我々の強い皮膚を齧す其の口は如何なものでせうか、之れは人の知りたい事であります。御存じの通り蚊の口吻は細長い絲の様なものであります、蟲眼鏡でよく検査して見ますれば、實に精密なる構造をもつて居る事がわかります。即ち外にあるものは鞘でありまして、中には外科醫の持つて居る様な種々のものを具へて居ります。即ち此鞘を開いて見ますと

五本の軟かな極めて細い針が出ます、中二本は三稜の刃でありまして、先端少しく反り、反りたる背の方に又の細かき鋸齒をもつて居ります。之れが即ち人の皮膚を傷けるに必用なものであります。他の三本は眞直な針でありまして之を傷口より刺し込んで血を吸いあげるものであります。元來是等の針は軟かなものであります、外側に鞘があります爲め容易に皮膚を傷ける事が出来るものだそうであります。是等の武器は頗る細いものであります、之を縫針に比べますと、丁度針と針との比位の割にあたります、でありますから人を刺した傷は極めて小さく殆ど見る事が出来ません、痛みもなければ痒みもありません、併し暫くしますと其所は腫れて來て痒みを覺えます。蚊の毒、此の痒くなり且つ腫れてくるのは蚊が一種の毒を注入する爲めであります。抑々人間の血液は血管の中にある間は流動する液體であります、其外に出ますれば間もまぐ凝固して固體となります。固體となりましては蚊は之を吸ふ事が出来ません故に、蚊は血液の凝固を妨ぐる一種の毒

をもつて居ります。人を刺した時には先づ第一に此毒を注射し血液の凝固するのを防ぎます、此毒が即ち人畜に有害なものでありまして、之を除き去る事は困難であります、腫れ上り、痒みを覺ゆるのは此毒の爲めでありまして、之を搔く時は益々毒を擴げて害を大にするものであります。アムモニア水か、清水で洗ふ時は少しは痒みを軟げ、腫れるのを防ぎます。

人を刺す蚊は雌であります。人を刺し、人の血液を吸つて生活して居るものは雌であります。雄は人の血を吸いません、主に花の汁や酒、砂糖等を吸ふて生活する上戸下戸兼帯のものであります、でありますから雄が人家に来る事は少ないものであります、多くは一生叢林中又は沼澤等に近く住んで居ります。雌も血液を充分吸ふ事の出来ない時には酒砂糖等を副食物にいたす事があります。雄と雌とは如何程異なるか、と申しますに雄は一般に雌より小さいもので、頭には一見二對の羽の様な觸角を持つて居りますから容易に雌と區別する事が出来ます。夏日燈火に迷ふて來る小蟲の

中には澤山混じて居ります。蚊の生涯、總て昆蟲は卵から成蟲になるまで三階の時代を経過いたします、即ち卵から孵化したものは幼蟲と申しまして翅も持たない最も盛んに成長する時代であります、蠶、毛蟲、蛆等の類であります。次の時代は蛹と申しまして食物も取らず又多くは運動もせぬ時代であります。第三の時代が即ち成蟲として翅をもつて飛び出す時でありまして、此時代は主に生殖をする時期であります。成蟲も、蟬が炎天になくのも皆交尾産卵の目的をもつて居るのであります。

蚊の卵、蚊は生熟しますると桿棒狀の卵を産みます。之は數十個づつ頭を並べて水面に浮べるのであります、一疋の雌の生む卵の数は實に三百に達します、夏の日吾々の周圍に襲いて來る蚊軍の多いのも無理のない事でありまして、此卵は凡そ二週間の位で孵化して幼蟲となります。

蚊の幼蟲、之れは御存じの子子であります、停水、溜り水、溝梁、天水桶、或は沼池等に生活して

居ります。俗に「子子」がわいたと申しますが、凡て  
昆蟲は獨りでに涌くものではないとせん、皆卵か  
ら孵るのであります。此子も卵から孵つたもの  
でありまして屈伸して巧に水中を泳いで居ります  
が猶空氣を呼吸する蟲でありますから、いつでも  
水面に浮んで居て、其後端にある氣管を水の外に  
出し呼吸を營んで居ります。頭は大きくて水中に  
沈んで居ります、二つの大きな眼と一つの口とを  
もつて居ります。其食物は水中に居る小動物、腐  
敗せる物、小植物等であります、でありますから子  
子が長く住んで居ります時は其水が奇麗に清いま  
す、此點に於て子子は寧ろ益蟲といはねばなりま  
せん。

蛹は其幼蟲に似て居りますが頭がもつと大きい  
ので通常「鬼子」と申して居ります。其呼吸する氣  
管孔は尾端にあるものであります、背の真中  
にありますから、蛹は水面に浮んで此所を出して  
居ります。子が蛹になる迄は二三週間か、りま  
す、更に之が成蟲となりますのは一週間の後であ  
ります。

成蟲となる時は蚊の一生の中の最大危機でありま  
して、水棲のものが空中に飛び出す其の危い刹那  
の有様は極めて面白いのであります、あまり長  
くなりませんから省略いたしませう。

「アンエレス」羽に斑紋がありますから「斑紋」と  
も申します、普通の蚊と異なる所は羽の斑紋と、  
其休止する時の様子で、普通の蚊が止まる時は其  
の體は水平であります、斑紋にては頭を地を  
近づけ、尻を高く立て、所謂「しやちち」をし  
て居ります。其幼蟲は主に水草などを食ふて居り  
ます。其蚊も大抵何所にも居りますが、東京には  
殊に不忍池近傍に多いとかいふ話であります。  
蚊と傳染病、蚊の媒介する傳染病は前にも申しま  
した通り「瘧疾」や「マラリア」と「フキリヤ」とであ  
ります。「マラリア」は人の血液中に住んで居る一  
種の下等生物でありまして、其卵は蚊の血を吸ふ  
際に血と一所に其胃の中に達し、此所で發育して  
幼蟲となりまして、それより胃壁を破り、其の唾  
腺に入りて居ります。其蚊が再び他の人の血を吸  
ふ時は其唾液の中に混じて血液の中に注射され、

盛に繁殖して瘡を起すのであります、此の「マラリア」を媒介する蚊は「アノフェレス」ばかりでありまして、他の普通の蚊の胃の中では「マラリア」の幼蟲は發育いたしません。

「フキラリア」とは長さ二三寸の細長い絹糸の様な蟲で、人體内に棲りまして澤山の子供を産みます。此子供は皆血液の中に出て参りまして、蚊が血を吸ふ時其の胃の中に入り胃の中で發育し唾液腺に出て唾液と共に他の人體に注射せらるゝものであります。此の傳染を媒介する蚊は普通の蚊であるか、又は一種特別の蚊であるかは未だ確かにわかつては居りません。「フキラリア」が寄生して起る病氣は一寸「マラリア」に似た所もあります。が、それよりは一種特別の症狀を起すものであります。熱と共に主に陰部に陰囊及び陰唇と足との皮膚が漸次厚くなる病症であります。九州では「クサ」病と申すのであります。大島地方、天草地方に多い病氣でありますが我國には全國にある様であります。また同じ「フキラリア」でも唯だ尿の色を牛乳の様に變化する丈の症狀を起す事

もあります。

蚊の驅除、蚊は我々の血液を吸ふばかりでさへ充  
分嫌ふべきであります。殊に嫌ふべき病毒の媒  
介を致すものでありますから、其害をさける事は  
必要であります。其害をさける方法は種々ありま  
す。

蚊は高く飛ばず、蚊は何種類によらず高い所迄は  
上りません、でありますから三階の高屋には蚊が  
稀であります、二階は階下より蚊の襲撃を蒙る事  
が少いものであります。熱帯地方にては殊に悪性  
の「マラリア」が流行いたします。蚊の襲撃も頗  
る盛でありますから、土人は種々の手段を講じて  
蚊をさけるにつとめて居ります。其の土人の最も  
安全なりとする法は高き木の上に寝るといふ事  
であるさうで御座います。

蚊は明るきを好まず。蚊は常に暗い所を好んで、  
夜間人を襲ふに致しまして燈火の光の明るい所  
には来ず、机の下、椅子の下、屏風等のかげに徘徊して人を刺します、でありますから電燈瓦斯燈  
等を以て室内を充分に明るくするのも蚊の攻撃を

逃るゝ一法であります。蚊遣り、之れは昔から行はれた法で、松葉、杉葉、杜松等を薫べたのであります。就中最も効のあるのは除蟲菊の粉末を薫べるのであります、ある地方では蠶糞を乾かして薫べる所もあります、支那にては松或は杜松の鋸屑に少量の硫黄と砒石末とを混じ、之を薫べるさうであります。根本的驅除 蚊を絶對的に少くするには蚊の生活の道を斷たなければなりません。之れには子子の生活する様な水溜りをなくするのであります、排水をよくし、溝をさらへ、雨水の溜る窪地を埋める等であります。是等の水溜りさへなかつたら蚊は發生する事が出來ないのであります、高臺の地に蚊の少ないのは此爲めであります。又叢林には雨水が長く溜つて居る事がありますから、必要な草木は成る可く除く事が必要であります。又池が大きい之を埋める事の出來ない様な場合には其中に魚類殊に金魚や鯉等を放飼するは宜い法であります、是等の魚類は中に池發育した子を食い盡す能を持つて居ります。

又溝梁の如きものには石油、バラフキン油等を注ぐのも子を殺す一方法であります、即ち油の膜が水面に出來ますから子が呼吸する事が出來なくなるのであります。其外自然界に蚊を取り食ふ動物即ち蚊の敵は、とんぼ、かげらふ、燕、よたか、あまがへる等であります。(婦人衛生雜誌)

## 西洋美貌法の今昔

A S 生

美貌とは何ぞや、一言を以てこの問題に答へることはむづかしいので、人類の美貌の理想は、すべての時代、すべての國民によりて色々に異て居る、今日もやはりさうであります、美貌といふ觀念は又明人に於きましては、その發達の低度な國民に比して遙に高尚で且つ純潔であることは勿論であります。身體の美といふものは、その完全なる健康を外に於ては、考ふることの出來ないものであるといふ

ことだけは確かなことでありまして、この點より見ますれば、元來美貌法は醫師の受持領分なのであります。

吾々は種々の關係に於て、古人の生徒でありますから、その古代の美貌法と近世の美貌法とを比較して見るのも、敢て興味の無いことでもなからうと思ひます。

今日とても左様であります、古代の化粧法は、殆ど全く女性の美貌法に限つたもので、男子は大抵ただ香物と毛髪藥を用ゐた位のことでありま

す、昔埃及の若い女共は、赤と白の顔料を用ゐ、髪に油をつけ、足と手の爪は「ヘンナ」を以て「オレンジ」色に染め、睫毛は「メステ」と申して硫化安知母尼で染め、眼縁にもこれを塗り、髪は染方を知て居りますし、息の香を好くする爲には乳香を嚼で居りました。

猶太人は、古の埃及人より此の化粧法を色々取用ゐて發達させましたが、しかし化粧法の眞の發明者また完全者は、古の希臘人と羅馬人でありまし

て、その處方の大部分は、今日もなほ用ゐられて居ります。

三二

これは先づ主要なる一般法として、十分沐浴をする。沐浴して後に好い香のする揮發油を混ぜて油或は羊脂、今日の刺納林などを身體に塗り、白色と紅色の顔料、香薰用また汗止の粉も知られて居りました古羅馬人は、希臘より傳來した化粧法を發達させたのであります。

その肌膚を軟かに且つ滑かにして置く爲には、貴婦人は非常に務めて、また頗る不快な身嗜を致したものであります。乃ち晩には先づ牛乳と麪包屑の膏藥或はまた脂濃き蠶豆で搽へたものなどを顔に塗りつけ、朝になつて、水又は穀類と沒藥の乳劑、或は驢馬の乳で以てこれを洗ひ落し、それから顔と手と胸とは、羊脂を塗り込むのであります。又手脂を去るのには、山毛櫟灰と山羊脂とで造た石鹼を以て洗ひその上にまた牛乳を手で濯いでこれを乾かす。浴湯は「ヤスミン」油で匂をつけ、湯上りには、熟練した者に手と足の搽をさせ、爪を切つて硬皮を去る。その香の好い石鹼油類竝に

揮發油の香料の數は澤山ありますが、名高いのは「コスモス」でありまして「コスメチック」といふ名もこれから來たのであります。

また賓客に匂いのするものをかけるといふ習俗は今日の吾々には、餘程奇異に感ぜられるのであります。彼等のネロの宴會には、極上等の香水の霧を招待者の上に天井から降らしたといひ、トリマリキオの宴會では賓客に香油を灌ぎかけたといふことでもあります。

齒を磨くこと、齒石を除くこと、又缺けた齒に物を被せ或は繕ふことも知られて居りました。口の中には薔薇水或は泊夫藍で香をつけた水を用ゐ、或は乳香、沒藥を嚼で居ります。又顔の皮膚の爲に應用された所の塗藥には、風化した曹達（アフロニトルム）或は「サルミアック」を用ゐたのであります。

髪は、木或は象牙の櫛を以て梳げづてり油を塗り又毛髪に銀をあてたり、縮らしたりすることに、頗る念を入れたものであります。髪に網を掛け、ることも既に應用されて居りました、染髮藥とし

ては、綠色の胡桃皮を應用し又錯酸鉛も用ゐられました。

鬘や髻には日耳曼毛が多く用ゐられて、髪の色を抜くのは強い亞爾加里性の石鹼を使ひました。後にはブロンドの日耳曼毛が流行になりました。理髮師は、専門家として醜い顔の毛、腕、足の毛を除き、これに剃刀或は輕石を用ゐる。女はまた「コルセント」の代りに胸紐を用ゐて居るのであります。

羅馬の滅亡後には、化粧法もやゝすたりましたが中世期に至りて佛蘭西に於て更に發達致しました尤も昔の化粧品は、大分忘れられて仕舞ふたのであります。

又個人の家に於ける沐浴及び公衆浴場に於ける沐浴の習俗も、羅馬人と共に漸次忘却されてしまふたのであります。この沐浴は、また一部に教會側から禁せられたのであります。聖ヒロニムスは、幼時より一切沐浴をしなかつたと云ふやうな次第であります。それで十八世紀の後半期に至りまして、再び沐浴の良好なる影響が多少新に發見

されねばならなかつたといふ始末であります、最初は只だ足だけの沐浴で、床屋が持て居る僅の盟を病人にのみ應用したのであります。それが段々また全身浴の認めらるゝやうになつたのであります。

十八世紀の末頃に染髮粉を塗るのは有害であるといふので棄てられ、千七百七十九年の英國議會でこれを禁ずることになりました。

當時已に獨逸の醫者は、最も効力ある唯一の化粧法として、千七百八十六年のワイマルで出したモデー新新聞で沐浴を勧めて居ります。

以上の如き有様でございましたが、かやうな習慣も忽ち變つて、はい今日と同様に成てまゐりました、學術の進歩につれて、追々改良され、變化され、化粧法の大部分は、殆ど醫師或は齒醫者の仕事と成たのであります。

瘵せる法、或は肥る法は、雷に疾病狀態を癒す爲に行はるゝのみならず、また化粧的目的に應用され脊椎の彎曲及び骨の畸形は、不具療法的に處置せらるゝといふ譯で、兎に角完全なる健康なし

には、美貌といふことは考へられぬのであります。

そもゝ體形の美は。第一骨格に關し、次に筋肉の性状並びに脂肪組織の分配に關するものであります、まして、身體と四肢の各部は、善く釣合を保つて居なければなりません。今こゝに一々美貌の特徴を擧げてお話することは困難であります、主としてその攝生法に就て述べて見やうと思ひます。

先づ美貌法に於て最も大切な方法と致しましては古より沐浴を採用致したもので、今日と雖も微温浴、又はこれに糠を混じて用ゐ、且つ全身按摩法を行ふことは、身體を若やかに保つ所の最良の方法なのであります、しかし既に若い時分より、この衛生法と同一である所の美貌的衛生的を始めなければなりません、そこで哺乳兒の榮養の全般に注意して、骨の彎曲を起さぬやうに、或は筋肉及び脂肪の發育に異常を來さぬやうに、心をを用ゐなければなりません、少女の健康發育は、しばしば締紐に由て障礙され、再び善くすることの出来ないやうに成ることがありまして、其の結果は高

度の蒼白症、腹筋及び背筋の弛緩、腸の障碍等であり、是を以て、醫師と教育家は、両親と相提携して、是等の不良状態を排除することに勉めなければなりません。

緩き着物、コルセットの禁止、新鮮なる空氣中に於ける盛なる運動、無刺激性にして有力なる食餌體操及び遊技、テニス等は、最も良き發育不全の防遏法であります。身體を強固にすることに由て、その美は更に一段と進められます。この目的には、先づ冷水摩擦、光浴、空氣浴及び日光浴、治療的體操法及び各種の遊技を用うるのであります。

有害なる過度の脂肪沈着を除く爲めには上に述べました體操法の外に、新陳代謝を盛にし、且つあらゆる種類の病的産物を排除すべき能力ある電光浴を以て卓逸なる方法と致しますが、この電光浴に於きましては、身體を日光の如く照らして、皮膚機能は旺に興奮せられ、あらゆる病的産物は、汗に由て尿酸の排出さる、如く排除されて、全體の臓器は強められ且つ新に生氣を帶ぶるものであ

ります。これと同じく理想的の瘵せる法たる光浴の後には、次に次で微溫浴中に於ける冷却、安法及び按摩法を行ひます、要するに根本的の化粧法は、嚴密なる醫師の検査と、理學的榮養法的嚴則に従て指導さるゝ所の一般處置を俟て、初め

て其の効果を收めらるべきものであります。皮膚の養生には、シユライヒ教授のバスター及び石鹼が頗る推選するに足るもので、これには委しい使用法も添へてあります。凡ての美顏水、染髮藥、臘脂類、口腔藥等を今こゝに擧げるとは省きますが是等は殆ど古の希臘及び羅馬時代に於けるものと同様で、たゞ化學的智の進歩に由て種々に改良されて居るまであります。

古代に對して化粧法の進歩したといふ點は、美の缺陷は、往々たい身體に於ける疾病の徴候であるといふことの智識に由て表はれて居るのであります。この昔人の知らなかつた智識に由て、現代の化粧法は學問の範圍に高められた譯であります。かくて最早改良の餘地もないかの如く見えませんがまだ々々色々の事が出來ます。私は今一つ擧げ

て見やうと思ひますのは、鐵光輝照による禿頭の療法であります。これは醫者に依て實施され、學術的に試験されて、多くの場合に有効であることを説明されたものでありまして、盛に所々の商會などで發明された、所謂毛生藥なども排斥される次第であります。何故とならばこれは、其の最も有効な場合でも、たゞ頭の皮の養生、その興奮位の役にしか立たないからであります。凡て是等の藥劑の多數は、その無効なことを證明されましたが、何れの範圍に於きましても、化粧法のやうに祕密藥消費の盛なものはないのであります。

## 玩具研究部配布玩具

本月は三才以上の方へは男女を問はず本會員高市次郎氏の新案に成れる空中飛行器を配布することに致しました。歐米でも空中飛行器は玩具界の流行となつて居る際で、従つて子供迄が空中飛行器に熱中して居る様子ですが、流石東洋の孤島にかけ離れて居る丈、我國は近日漸く研究會が陸海軍中に設けられた位です。併し列強の間に頭角を

顯はそうと云ふには空中飛行器問題は是非とも研究を要する問題です、然るに本玩具は是等の必要を暗示するには屈強な觀察用玩具と思ひますので本月はこれを配布することに致しました。使用法は成る可く廣き部屋の真中頃に天井より吊る下げてそしてゼンマイを充分にかけて離すとほんもの、飛行船の通りに部屋中を飛んで回ります。定價金 拾錢で本賛助員諸家へは原價で差上ることに致しました。尙參錢許り不足になります。是は來月分で補ふことに致しました。

二才以下の方へは天鵝絨製の小丈と小ハモニカとを配布することに致しました。前者は標本的觀察玩具、後者は實驗用玩具で共に男女を通じて、必要なものであります。

## 新案玩具の紹介

定價 小 犬 金四拾錢  
ハモニカ 金拾五錢

フレーバル館主 高 市次郎

○プラスチックおもちゃ箱

先月本會から賛助員へ配布したプラスチック美麗なる箱に入れ之に書形と篋二本九棒一本とを入れ今度丁未出版社から賣り出した此のプラスチックは英國から最近に輸入した從來の油土と唱へしものとはよく似たもので鼠赤、藍、黃、綠の五色に製造されてある手や衣類に附染することなく清潔で無害で寒暑の爲めに少しも變化せず幾年立つも決して乾燥せず如何なる細かい細工でも出來其の製作した模型を其のまゝにしておけば外部は固くなつて破損することなきも之を潰して少しく捏ると元の通りになるのがプラスチックの特質で世界諸邦の博覽會に出品して金銀賞牌十個を受けて居る、英國では今大流行で道行く小僧までが之を弄んで居るとのことである小學校幼稚園の粘土細工用として最も適當したものである

定價 貳拾五錢

○玉並べ

五色に染めた金屬製の珠を九十ヶと並方の標本畫七枚とが入れてあつて之に十三行十三列に穴が明

けてある盤が付いてゐるそれで模様畫動物の繪などが自由に出来る様になつてゐて幼稚園手技中並べ方の應用としては適當のものであると思ふ

定價 六拾貳錢

○源平球

ピンボン用ラケットと同じもの、端に長き紐を着け其の最端に紅白の球がつけてあるもの二本一組でラケットは玉受け用球は攻撃用に用ゐる又的打とも出来る危険の憂はない説明書には一名くさり鎌とも云つて武士道鼓吹の爲めであると思ふ運動玩具として幼稚園などには適當かと思ふ

○空中飛行器

弊館第二の製作玩具である歐米の空日に飛行器進歩の跡を見ざるなきの時に當り本邦に於てもせめては玩具でもと一生懸命になつて拵へたのだから自分は世界で一番面白い玩具だと思ふ買つて見て下さい説明は配布玩具説明中にあると思ふから略す

因に第一製作品は吸付色板排である

(不口八順)

三八

東 山 東 東 東 横 東 横 東 愛 愛 東 東 東 東 秋 横 東 東 東  
京 梨 京 京 京 濱 京 濱 京 知 知 京 京 京 京 田 濱 京 京 京

二才男 六才男 六才男 五才男 六才女 二才男 五才女 七才男 五才女 五才女 五才女 五才女 五才女 五才女 五才女 五才女 五才女 五才女 五才女

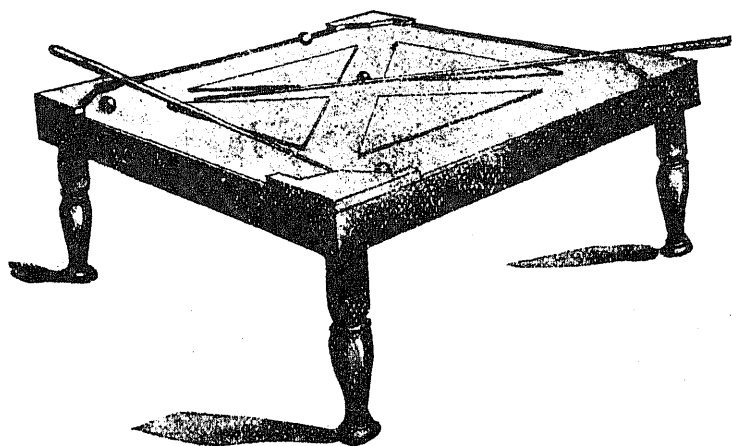
武村千代 寶井保雄 千葉邦雄 寺尾依之吉 寺田隆造 戸田アグリ 中川宗七郎 同 人 中 川 シ メ 中 島 歌 同 島 榮 吉 直 江 忠 治 西 村 漸 野 津 ミ チ 波木井 光太郎 波木井 銀次郎 原 岩 吉 細 田 武 雄 増 田 義 一

東 東 東 東 東 横 横 横 横 長 東  
京 京 京 京 京 濱 濱 濱 濱 野 京  
六才男 五才男 四才女 九才女 三才男 五年女 五年男 六年男 六年男 五才男

同 人 松本幼稚園研究部 松 隈 武 松永徳太郎 前田邦太郎 巳野兼吉 水野マス 山脇春樹 山本二郎 古川誠助 同 (以下次號) 人

本會が本月四月玩具研究部を置き續いて  
賛助員募集 賛助員募集 賛助員募集  
なりき以て後設置早々整理の方法不熟練の  
爲め或は配布遅延し或は郵送上誤りを來  
す等のことを免れざりしが會員は月々増  
加して殆ど百名に達し目下續々申込あり  
因て増々奮勵して考案撰擇に勉め爾後必  
す雑誌と共に玩具を配布可致候會員の増  
大は價額の廉價と考案品の製作の上とに多  
致候規則書は御申越次第直に郵送可致候

# 新案 卓上球突



◎日本體育研究會考案

◎趣味津々飽くことを知らず

◎殊に夏期消夏の最良法

◎家庭和樂の源泉

◎學校幼稚園職員親和の最方便

◎定價（球棒付） 五 圓

◎方法は説明書に明なり

東京九段中坂上  
フレーベル館

ドクトル 富士川 游先生序

陸軍三等軍醫正 千日 亮先生 共著

陸軍一等軍醫 安井 洋先生

●新刊發賣!!!

# 輓近育兒法

全一冊

菊判洋裝美綴  
紙數三四八頁  
正價壹圓貳拾錢  
郵稅八錢

## 誕生より學齡期前まで

附錄 第一、兒童の心身の關係 第二、兒童精神作用の健否

兒は幸福の神なり兒を育てあぐることの如『此の兒には此の能あり

彼の兒には彼の能あり』兒童の個性の長所を發揮身體及び精神の強

健を圖らざるは是れ等の目的に合する爲め著者が嶄新なる一般醫學の見地より特

と保育との重大なる關係を明かにしたるものにして兒童の保

育教養に關するものは細大遺す所な兒童の精神作用の如何に就ては特に兒

高島平三郎先生の著述を附録として合本しあるが故に尋常一様の育兒法

母たる未來の父母たる幼兒教育者女子教育者及び小兒科する

醫家は必ず一本を備へて日常の參考に資せしむるべからず乞ふ速に購讀せよ

本書目次の大要

總論

第一章 育兒の樂み

第二章 母の務め

第三章 生後一年間の保育法

第四章 母の乳

第五章 附兒の食餌

第六章 學齡前の注意

第七章 當病の一時手

第八章 幼兒の教養

附錄

發行所 東京 市金町 龍區 八二番 吐鳳堂書店

# 各女學校御用

## 美術造花材料一式

半製品及鋸打拔類

## 摘細工材料

絹縮緬及金銀モール  
寫眞臺紙柱掛

## 瓶細工材料

刺繡用絲及針

東京市本郷區眞砂町十五番地

卸小賣 百花堂 木村喜兵衛

●地方御注文ハ代金引替ニテ郵送ス營業目錄御報次第郵送ス

明治四十二年八月一日印刷  
明治四十二年八月五日發行

編輯兼東京市小石川區竹早町七二  
和田持直印刷者

東京市本所區番場町四番地  
片岡武市發行所

女子高等師範學校內  
フレンジャー會